

GRAND REOPENING

東洋文庫 ミュージアム

TOYO BUNKO MUSEUM

東洋文庫ミュージアムは2026年1月21日(水)にリニューアルオープンいたします

東洋文庫はおよそ100万冊の書籍を所蔵する、日本最大にして世界でも五指に数えられる東洋学の研究図書館、ミュージアムです。この100万冊は岩崎久彌が蒐集した膨大な和漢書籍群「岩崎文庫」と英紙『タイムズ』の中国特派員を務めたほか、冒険家、図書蒐集家でもあったG.E.モリソンの蒐集した「モリソン文庫」の二大コレクションを中心としており、1924年の東洋文庫の創立以前から、100年以上にわたって蒐集されてきたさまざまなコレクションの集積です。2011年にはミュージアムをオープンし、これらの貴重な書籍を皆様に気軽にご覧頂けるようになりました。ご観覧とあわせて、併設のオリエント・カフェで小岩井農場自慢の素材を使ったお料理やティータイムをお楽しみ頂けます。

2026.1.21 [WED.]

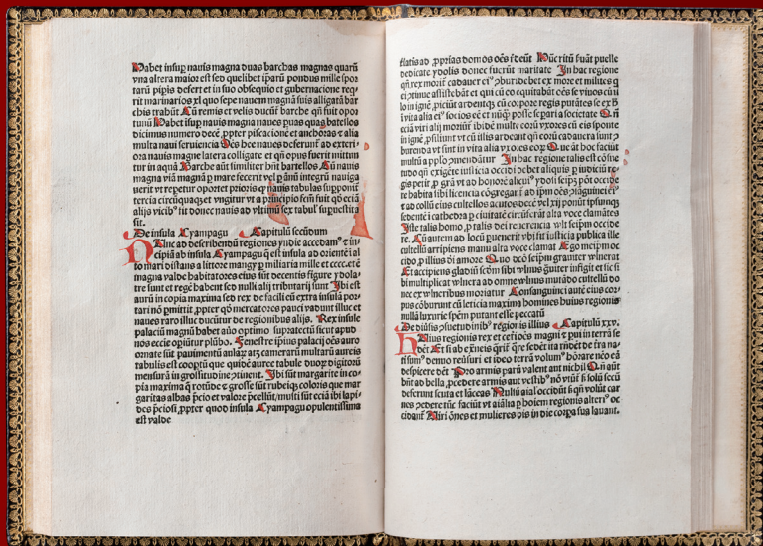
オープン記念展示

ニッポン再発見

——異邦人のまなざし——

2026年1月21日 火～5月17日 日

日本を訪れた外国人は、日本にどのような印象をもったのか？ 海外の文献のなかではどのように記述されてきたのか？そして歴史的な出来事はどのように認識されているのか？ マルコ・ポーロから小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）まで、日本における異文化との接触・交流の足跡、そして外から見た「日本イメージ」の変遷をたどります。



東方見聞録

マルコ・ポーロ口述、ルスティケッロ著 1485年
アントワープ刊
東西の出会いの物語

『東方見聞録』はヴェネツィアの商人マルコ・ポーロが、父や叔父と東方を旅した際に見聞したこと、体験したことがまとめられた旅行記です。東洋文庫には年代がわかるものだけでも、出版年・出版地・言語が異なる『東方見聞録』が約80種類あり、刊本のコレクションとしては世界最大です。本書のなかで、日本は黄金や宝石を豊富に産出する島「ジパング」として紹介されています。その内容は多くの人々の憧れを刺激し、大航海時代の幕開けに大きな影響を与えました。



ジョン・セーリスの航海日記

(国指定重要文化財)

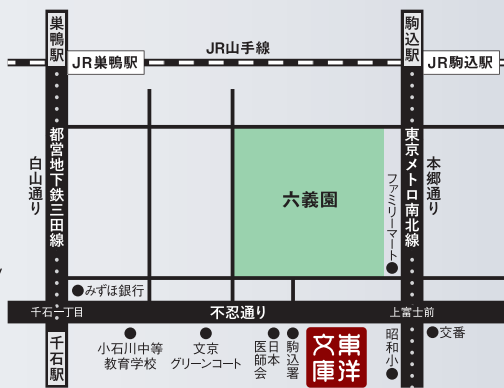
ジョン・セーリス 1617年 ロンドンにて清書
日英交流400年の始まりを記す航海日誌

1613年、貿易商船隊司令官ジョン・セーリス（1580—1643年）は国王ジェームズ1世（在位1603—25年）の親書を携え、日本で貿易を行う目的で1611年4月18日にイギリスを出帆しました。この資料は当時の航海日誌です。日誌はイギリス出港の日に始まり、セーリスのイギリス帰国の日まで、丹念につけられています。東洋文庫が所蔵しているのは、セーリスがフランシス・ベーコンに献呈したと伝えられる清書本で、セーリス「航海日誌」として世界に知られる貴重なものです。

【開館時間】
10:00～17:00
(入館は16:30まで)

【休館日】
毎週火曜日
(祝日の場合は翌平日)

【ホームページ】
<https://toyo-bunko.or.jp/>



東洋文庫ミュージアム

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21
JR「駒込駅」、東京メトロ南北線「駒込駅」、
都営三田線「千石駅」から徒歩8分